

原爆ドーム前から On Line Save Myanmar From Hiroshima

～ミャンマー(ビルマ)を忘れないで～

ミャンマー民主化への闘いは、今

2007年サフラン革命のリーダー、アシン・タワラ師が語る

2022年6月20日(月)

*原爆ドーム前 犠牲者追悼
18:30～:18:45

*ミャンマー(ビルマ)の市民の訴えを聞く会
19:00～20:30 受付 18:45)
原爆ドーム東側 西向寺本堂

広島市中区大手町 1-6-18

(コロナ対策のため、要事前予約、**30人まで**)

■申込み締切 会場・ZOOM共に**6月18日(土)**まで

■申込み先 **mail: odake@orange.ocn.ne.jp**

※お申し込みは必ずメールにてお願いします。

※会場参加・ZOOM参加必ずお書き下さい

※ZOOM参加の方、返信メールに後日視聴URLを送ります。



(アシン・タバハラ師)

■会場参加、ZOOM視聴の方 会の開催にカンパをお願いします。
(※また、民主化を闘っているアシン・タワラさんに支援カンパを募ります)

■主催 ミャンマー(ビルマ)の市民の訴えを聞く会 事務局 小武正教 080-5233-3429

2011年、ミャンマーはそれまで60年あまり続いていた軍政から民主化への舵をきりました。その大きなきっかけを作ったのが、2007年の民主化運動、いわゆるサフラン革命でした。ミャンマーの僧侶が前面に立ち、市民と共にヤンゴンの大通りを慈悲経を唱えて行進しました。しかし、軍は発砲、数百人の僧侶が銃弾に倒れ、4000人以上の僧侶が逮捕されました。アシン・タワラ師はそのリーダーでした。

2021年2月1日、ミャンマー軍のミンアンプライン将軍がクーデターを執行してからすでに1年4ヶ月。この間ずっとミャンマーの民主化を望む市民を弾圧・殺害、そして少数民族への空爆・殺戮は今も続いています。ミャンマー国民は数ヶ月間、非暴力・不服従の闘いを続け、世界の支援を待ちましたが市民への弾圧は激化、4月16日に、前年当選した議員によって国民統一政府(NUG)が作られ、今、ミャンマーの正当な政府として国際的な承認を求め世界各国に働きかけています。そして2021年9月、NUGは軍の弾圧から市民を守るため国民防衛隊(PDF)を組織しました。今もミャンマーでは市民的不服従(CDM)や様々な非暴力的抵抗、そしてPDFと民主化への闘いが続いています。

今、ノルウェーに拠点を置き、NUGのパートナーとして活動しているアシン・タワラ師に「ミャンマーの今、そしてこれから」をお話しして頂きます。

